



催眠惑星 Mars

おとこじゅく
ななしのいち

成人向

僕は七志乃一。

ななしのはじめ

とある公立高校に通う男子学生。

唯一の趣味は写真。

そして写真部(部員は僕一人...)に所属

定期的に行われる学校行事の写真は僕の担当で

学内ではそれなりに貢献しているつもりだ。

しかしクラスの中では目立たず。

友達と呼べる人間もほとんどいない。

昼休みになるといつも隠れて弁当を食べ、

たとえば病気で長期間休んだとしても

だれにも気づいてもらえない。

いわゆるゆ典型的な陰キヤだ!

そしてこれはその陰キヤの僕が

クラス一陽キヤの女子を辱める物語!

ダークウェブを覗いていて

偶然発見見つけた催眠アプリ!

本当にこんなもので催眠術が!?

しかしフリーアプリだし...

効果があったら儲けもの!

まよわずダウンロードした!

これであの女を...

火野レイ!

ダウンロード

この女のせいであ...



あれは……

僕が卒業アルバムに載せる写真を撮るため

校肉を回っていたときのこと……

室内プールを撮影しにきてみたら……

あ……あれは……水野さん……

同じクラスの僕の憧れの水野さん！

悪いとは思いつつ……

僕は夢中でシャッターを切った！

おおおおおっつ！

なんとという至福の時間！

50mm 1/200 F4.0 ISO100 -0.3EV

AF-C

火野レイだ……！

確かあなた同じクラスの……
名前は……なんだったかしら……

誰でもいいわ！
影の薄いヤツよね！

く……僕のこと覚えてないのかよ……！

盗撮よね！

私達のこと撮ってたでしょ！？

あなた今……

なにやっているの！？
あなた！

気を付けて！

こいつ変態よ！
亜美ちゃん！

こんな変態が
同じクラスなんて……！

こんなことするなんて
あなた童貞よね！

虫唾が走るわ！

ち……違う……

水野さん……誤解だよ！

こんなことする人
だったなんて……

いやだ……
七志乃君……

カク

カク

カク

カク

シコ

火野レイ・・・
彼女も僕のクラスメイト・・・
強気で高飛車な性格で
近寄りがたい雰囲気をも
かもしだしている！

しかし見ての通り超美人で
学園でも5本の指に入る
男子に人気の美少女だ！

よりによって火野のヤツ・・・
憧れの水野さんの前で！

シコ

僕を変態呼ばわりしやがって！
赤っ恥だ！

それにコイツ・・・
僕の名前すら覚えていなかった！

見てるよ火野！

絶対復讐してやるっ！

絶対に許さない！

許さない！

許さない！

許さない！

許さない！

犯してやりたい！

レロプしてやりたい！

ほろ雑巾のようになるまでレロプしてやって

コイツの身体にありったけの精液

ぶちまけてやりたいっ！

うおおおおおっ！

イクウウウウウウウウツ！

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

次の目の放課後。。

火野を教室に呼び出した!

確か・・変態の七志乃君だっけ!?

童貞の七志乃君だっけ!?

何の用かしら!?

くっ・・相変わらずキツイ女だ!

「昨日僕から取り上げたカメラを返して欲しいんだ!」

「それに・・僕をバカにしたことの謝罪もしてもらわないと・・」

48日(金)

挙動不審な男ね!
はつきりしゃべりなさいよ!

返すわけないでしょ!

なんで私があなたに謝罪なんか・・

盗撮は事実でしょ!

謝罪してほしいのはこっちなんだけど!

これだから童貞の陰キヤは相手にしたくないのよ!

く・・そういうと思ったぜ!

それならこの催眠アプリで!

効くかどうかかわからないけど・・

僕にはこれが最後の手段だ!

「これを見る!」

何よその変なマーク!

それが何だっけというの!?

まったくばかばかしい!

あなた変態で童貞の上に・・

もしかして催眠術のつもりか何か!?

厨二病なのかしら!?

用がないんなら私は帰るわよ!

童貞のあなたと違って私は多忙なんだから!

それじゃ!

「ま・・・待て！」

「帰るんじゃない！」

!

な・・・何これ!?

「手をあげて後ろで組むんだ！」

「カメラは返してもらおうよ！」

手が勝手に・・・!?

効いた!?

催眠アプリの効果があったのか!?

これはいい!

動けない・・・!?

身体がいうこと・・・

それじゃ・・・試した・・・

「スカートをたくしあげてみて！」

あなた・・・
私の身体に何をしたの!?

くっつ!

おかしなことしたら
承知しないわよ!

おお・・・意外・・・純白のパンツ

あの高飛車な火野さんが・・・

僕の意のままだ!

そんなこと

するわけ・・・

ああああっ!

いやああああっ!

何をすることもり!?

「どうやらキミは

僕の統制下にあるみたいだね!」

これ以上変なことしたら許さないわよ!

「高飛車なキミになんでもできさちゃうよ!」

あああああつ!

「そつと僕は童貞さ!」

「ああ……これが女子のオツパイか!?!」

離して!!

早く手を離さないよ!

やめなさいよ!

「初めて女子のオツパイさわったよ!」

「ああ火野さんのオツパイ!」

「生のオツパイも

見てみたいな!」

「いいよね!」

ああつつ!

何するの!

この変態!

「おお火野さんのナマ乳!」

早く離さないよ!

いいかげんにしなさいよこの変態!

「火野さん着痩せするんだ!?!」

「結構胸大きいよね!?!」

早くその汚い手をどけてちょうだい!

ああつつ!

あああああつ!

「火野さんの乳首!」

「いじっちゃおうかな!?!」

「淡いピンク色で

綺麗な火野さんの乳首!」

「おおおお……こりこりしてる!」

「どう気持ちいい〜?」

いやあつ!

「もしかして感じてるんじゃないの!?!」

いやあああああつ!

「あの強気な火野さんが・・・
こんな弱気な悲鳴をあげるなんて！」

くっくっ！

「気は強いけど」

「乳首は弱いのかな！？」

「いやいや言いながら」

「気持ちよかったんでしょ！？」

「乳首で感じてたんでしょ！？」

「乳首弄ばれて」

「悦んでいたんでしょ！？」

誰があなたみたいなの
陰キヤに触られて・・・

「ウンはいけないよー！」

「やあ・・・」

「今度は僕の前に跪くんだ！」

まだ何かするつもり！？

「おおっ・・・」

「いい恰好だね！」

「僕のことを見下してた
火野さんが・・・」

「僕に見降ろされてる
なんて・・・」

「ああいい気分だな！」

何してるのよ！
あなた！？

ズボン

私に何をさせるつもり！？

「それじゃ今度は・・・」

「僕も気持ちよく」

「してもらおうと思ってね！」

早くその汚いモノを
しまいなさいよ！

ズボンなんかおろして・・・
どういうつもり！？

「キミ裸を見ただけで」

「こんなに勃起しちゃったんだ！」

「そうだなとりあえず・・・」

「手」キだ！」

くっ！

だ・だれこんな
汚いモノを手で・・・

シコ

シコ

触りたくないのに！

手が勝手に動いちゃうっ！

いやだ・・・
こんな卑猥なモノ・・・

ああ・・・いやだ・・・
手が勝手に・・・！

くっくっくっくっ！

「ああ……っつ」

「火野さんの手」キ……

「とっつても気持ちよかったよ！」

「さあ……次は……」

ハアハア
ハアハア

これ以上
まだなにかさせる気なの!?

くっつ!

ひっつ!



「ほら見てさらに勃起して……
もう痛いくらいだよー」

「舐めてくれるー!」

舐めろ……ですって!

そんなこと
できるわけないでしょ!

ぐんぐんっ!

い……いやあああつ!

絶対にイヤッ!

こんなモノ

舐めるなんてっつ!

あ……ああつ……

ああ……ああああああつ!

イヤアアアアアツ!

「おおおおつ
舐めてるー!」



「火野さんが僕のチ○ポを!」

「舐めてるッー!」

「おおおおお気持ちっつっつっつー!」

「今度は裏スジも
舐めてくれる!?!」

こんなモノ

舐めるなんて!

「下から上に……
舌を這わせて……」

い……いやあああつ!

「袋の部分も頼むよー!」

気持ち悪いっつ!

「ここは僕の精液が
たっぷり詰まった所だ!」

「特に念入りに
舐めておくれー!」



ああ……あ……あ……

「ああ……気持ちっつっつ……」

イヤアアアアアツ!

「ああああっつっつっつー!
っつっつも気持ちっつっつっつー!」

「今度はその小さな口で
啜っておくれ！」

「ほら早くー！」

「啜えるんだよー！」

「啜えろですって！」

んっっ！

んっっ！

誰がこんなモノ！

んっっ！

「ほら早くー！」

「何度も言わせないでよー！」

「抵抗しても無駄なんだって！」

んっっ！

「早く啜えるんだよー！」

んっっ！

ゴボウ

ングツッ！

んっっ！

ゴボウ

ングツッ！

「おお・・・おおっ・・・」

「啜ってるー！」

「じゃぶじゃぶしてるっっー！」

「火野さんが僕のチ○ポをー！」

んぐっっ！

「これがフェラチオー！」

「こんなのエロ動画でしか
見たことないよー！」

んっっ！

「しかも学園トップの
超美少女火野さんのフェラチオー！」

んぐっっ！

んっっ！

ゴボウ

「しかも高飛車で勝気な
火野さんに啜えさせての・・・」

「ディーブスロードー！」

「あああああっ」

「気持ちいいっっー！」

「火野さんのフェラチオ気持ちいいっっー！」

んぐっっ！

ゴボウ

ゴボウ

「はいよ火野さん!」

「もっと啜らせて!」

「啜らせて!」

「根元まで啜らせて!」

んっっ!

ゴボッ

「火野さんのその

くやしそうな顔!」

ゴボッ

「たまらないよっ!」

んぐっっ!

「屈辱にまみれながら啜える

火野さんの顔!」

「どつてもそえられるよおおおっ!」

「記念に撮影していいかな!」

「おおおおおい表情だ!」

んっっ!

「吸ってっ!」

シメッ

んーっ

シメッ

「もっと吸ってっ!」

んぐっっ!

「火野さんもっと吸って!」

「吸い尽くしてええええっ!」

「あああああああっ!」

「火野さんのバキュームフレラ!」

「気持ちいっっっっっ!」

んーっ

シメッ

んーっ

「もうダメだッ!」

「イクッ!」

「イクッ!」

んーっ

シメッ

「イクウウウウウウウウッ!」



「ああ・・・ごめん火野さん・・・」

「気持ちよくなって我慢できなかったよー!」

んっっ!

んっっ!

んっっ!

ゴッポッ

ゴッポッ

ゴッポッ

ゴッポッ

「どうだ火野さん・・・」

「いっぱい射精ただろう!」

「一滴残らず吸い取ってくれ・・・」



「いいか火野さん・・・」

「それは大事な子種汁だ!」

うっっっ!

ゴクツツ!

「一滴残らず飲み込むんだぞ!」



「全部飲み込んだかい火野さん!?!」

「口あけて見せてみて!」

あぁ・・・あぁ・・・

「全部飲み込んだか!」

「偉いぞ!」

「どうだい僕の精液の味は!?!」

「美味しかっただろう!?!」

「まだまだ時間は
たっぷりあるよ!」

「もっともっとと
たのしもうよ!」

くっっ!

うっっ!

「ほら火野さん……
手を後ろにまわして!」

「いいね……従順だ……!」

「抵抗するのが無駄だと
わかったのかな!?!」

「なんだこれは……
ただのペンか!?!」

ああっっ!
そ……それは!?!

「ん……どうしたの!?!
そんなにあわてて……」

「なんか怪しいな?!」

「これは何!?!」

「なにか大事なものなんでしょ!?!」

「隠しても無駄だよ……!」

くっっ!

そ……それは……

セーラー戦士の変身ペン……!

「セーラー戦士!?!」

うっっ!

「そっといえばネット掲示板で
もりあがったスレもあったな!?!」

「てっきり都市伝説とばかり
思ってたんだけど……」

「驚いた……火野さん君が……
セーラー戦士……!?!」

何・・・ここはどこ？

「写真部の部室だよー」

「ぜひセーラー戦士とやらを見てみたいんだー」

「変身してくれないかー？」

「誰が変身するもんですか！」

ああ・・・身体がまた勝手に・・・

くっっ！

セーラーマーズパワーメイクアップ！

愛と情熱の戦士セーラーマーズ！

火星にかわって折檻よ！

「しかし・・・これがセーラー戦士のスーツ！」

「レオタードのように胸の形がわかるほどぴったりしてー」

「ちょっと動いただけでお尻が丸見えのミニスカ！」

「おおおおっ！」

「本当だったんだ！セーラー戦士！」

「しかも火野さん・・・」

「キミがセーラーマーズだったなんて！」

「いったいキミはこの破廉恥な姿で何と戦っていたんだい！？」

本来なら一般人には正体は明かせないの！

わかったらいいかげん私を解放しなさい！

よけいなお世話よー！

あ……

そ……そんな……

！

「何言ってるのー？」

「伝説のセーラー戦士が
僕の手の内にあるんだ！」

「こんなチャンスめったにない！」

「ホールドアップだ！」

でもセーラー戦士に
そんな催眠アプリなんか……

くっ！

くっ！

「おおおっっー！」

「効いたーセーラー戦士にも
このアプリの効きめがー！」

「残念だったね！」

「セーラー戦士にも
催眠効いちゃうんだ！？」

「時間は十分にある……」

「たっぷり楽しませてもらうっよー！」

「どうやら折檻されるのは
火野さん……キミのほうのようだね！」

「これが何かわかるかいー？」

な……何よそれ！？

「知らないんだ……」

「あれどうしたのかな!？」
伝説のセーラー戦士が。。。!」

「あんなに悲鳴まであげちゃって!」

あ...あ...

「それに息も荒いよ...」

「こんなオモチャに降参かな!？」

バカにしないでくれる!
そんなものに私は屈しない!

私は妖魔との激戦を
戦い抜いたセーラー戦士よ!

「ほっ...それじゃ...」

「その屈強なセーラー戦士が
ピンクローターとの戦いのあと...」

「こっちの方は
どうなってるのかな...?」

「ほら脚をあげてみる!」

何するの!?!
やめなさいよ変態!

「なんだ...
濡れてるんじゃないか!？」

「もしかしてピンクローターを
乳首にあてがっただけで...」

「こんなにアソコを
濡らしてるんだ!？」

「やっぱり感じていたんだね!」

「ピンクローターで
感じていたんだね!」

「あれ・・・どうしたのかな
火野さん・・・!?」

「こんなにおツ」をたらして・・・」

あ・・・

ああああああ・・・

「もしかして
いつちやったのかな!?!」

「伝説のセーラー戦士が

こんなオモチヤごときで・・・!?!」

ああ・・・

イ・・・いつてなんか
ないわよ!

催眠アプリなんか使って
身動きとれないような状態にして!

こんなこと・・・
卑怯よ!

それから・・・

なんども言わせないで!

セーラー戦士はこんなオモチヤに
絶対に屈しないっ!

「さすが火野さん!」

「こんな状況でも
相変わらず強気だな!」

「僕が支えてないと
立つてもらえないくせに!」

「そんな勝気な火野さんに
今度は何をしてもらおうかな!?!」

「そうだ!火野さんが・・・
オナってるところ見てみたいな!」

ふせけないで!

オナれ・・・ですって!?!
できるわけないでしょ!

「おや・・・火野さん・・・」

「オナニーがどういうものが
知ってるんだ・・・!」

くっ!

「それなら話がはやい！」

マスかけ！

あ…ああ…
また手が勝手に…

て…手が
いうこときかない！

い…いやだ…
こんなの…

こんなやつの前で…

こんなこと…

くううつ！

「おおおおお。」

「火野さんがオナリでした。」

「催眠術にかかっているとはいえ
知っているんだオナニの仕方！」

手が止まらない！

い…いやっつ
なにこれ！？

「これは凄い！」

「学園トップクラスの美少女の火野さんは
いつもこんな風にオナってるのか！？」

ああああ…ああ…

何やってるのよ！

こんなところ
撮らないで！

「やっぱり火野さんでも
性欲は溜まるんだ！」

撮らないでって
いつてるでしょ！

撮らないで！

「セーラー戦士でも
性欲処理が必要なんだ！」

これ以上見ないでええっ！

「高飛車で勝気な火野さんは
こんな風に性欲処理をしているんだ！」

見ないで！

TNNcodomo

「いいねえ・・・
火野さんのオナる姿！」

ハアハア
ハアハア

いいかげんに
しなさいよ！

くうっ！

なにいつてるの！
私がこんなこと・・・

全部あなたの
催眠アプリのせいよー！

ハアハア
ハアハア

ハアハア
ハアハア

こんな下品なこと
してるわけないでしょ！

ああ・・・

「でもいつもはもっと激しく
オナニーしてんじゃないの!？」

ハアハア
ハアハア

あ・・・あ・・・

「もっといやらしい火野さんを
見てみたいよ！」

ハアハア
ハアハア

いやあああああああああつ！

「恥ずかしながらなくても
いいんだよ！」

「誰だって性欲は
溜まるんだ！」

「僕だって何度もキミをスリネタに
性欲処理してるんだよ！」

くうううううううううっ！

ああ・・・あああああああつ！

いやっ・・・
こんなのいやなのに・・・!!

「もっと激しく！
もっと淫らにっ！」

手が・・・勝手に・・・
とまらないの・・・!!

「オナれっ！オナれっ！」

「もっとオナれえええっ！」

「おおおおおおおつっ」

「セーラー戦士のオナニーショーだっ！」

クキキ

クキキ

クキキ

クキキ

クキキ

「スーツを脱いで・・・」

「もっと本気でオナニーしてみてー!」

こ・・・これ以上・・・
そ・・・そんなこと・・・

あ・・・

いやあああああつ!

また手が勝手に・・・!!

ああ・・・あ・・・

「だめだよー!」

「僕の言っことは絶対だ!」

くっ!

「おおおうっ」

「もう少しでアソコが!」

ああ・・・あああああつ!

「ああ・・・見えた!」

「これ女子のおマ○!」

「火野さんのオマ○!」

いやあああああああつ!

うっ・・・見ないで!

そんなに
まじまじ見ないで!

「いぞ火野さん!」

いやっ・・・
こんなの絶対いやっ!

くっ!

なんであなたの前で
これ以上自慰行為なんか・・・

「もっと激しく!」

ズ
ズ

ズ
ズ

ズ
ズ

いやっ・・・
こんなのいやなのに・・・!

「オナってみせるんだ!」

手が・・・勝手に・・・
とまらないの・・・!

「もっとやらせろ!」

「あれ・・・火野さん・・・」

「もしかして今・・・」

「いったんじゃないの!?!」

あ・・・あ・・・

あ・・・

ああああああ・・・

ち・・・違う・・・
イってなんか・・・

だ・・・誰か
あなたの前でなんか・・・

「火野さん・・・」

「オマ○」よく見せてみてー!

「おおおおおっ」

「濡れ濡れじゃないー!」

あ・・・

「膣内はどうなってるのかな!?!」

ああ・・・あ・・・

な・・・なにやってんの!?!
や・・・やめなさいよ!

「あれ・・・!」

「これはどういうことかな!?!」

「こんなにオマ○」

濡らしちゃってー!

「これはもう・・・」

準備オツケーってことだよね!

ああ・・・あ・・・

準備ってなによ・・・

これ以上私に何をするつもり!?!

「決まってるじゃないか!」

「セックスだよ!」

「だって火野さん僕のこと
童貞だってバカにしたよね！」

「だからキミとセックスして
童貞を卒業するんだよ！」

ば・ばかいわないで！

セックスですって!?!?
冗談じゃないわ！

誰があなたなんかと！

「うっんそうだね。。。」

「そうだね。。。キミの言うことももっともだ！」

「無理やり女の子を犯すのはよくない！」

「そうだな。。。」

「これからこのピンクローターで君に折檻をする！」

「それに耐えたら勘弁してあげよう！」

何。。。!?
そんな約束勝手に！

「君に選択肢はないと思うけどね！」

「さあ行くよ！」

「セーラー戦士が勝つか!?
ピンクローターが勝つか!?」

「世紀の大決戦だ！」

ひいひいっ！

や・やめてよ！

「これは楽しみだねえっ！」

い・今そんなところに。。
そんなのがわれたら!?!

ハアハア
ハアハア

ああ……ああああああああ……

「これは興味深い！」

ああ……あ……

「今乳首にローターをあてがうと
セーラー戦士の火野さんは……」

ああああああ……

「どうなってしまうのかな……？」

ハアハア
ハアハア

いやああああああああああああ……

ハアハア
ハアハア

「喘ぎ声というより……」

「もはや悲鳴だね！」

「いいんだよ……」

「降参するなら今のうちだ！」

くううっ！

セーラー戦士を
なめないで！

「さっさと屈服して
身も心も僕の支配下に落ちな！」

ぐぐっつ！

こんなオモチャ
なんかに！

下衆なあなたなんかには！
絶対に屈しないわ！

ハアハア
ハアハア

「そうかい交渉決裂だね！」

「それじゃしかたない……」

「折檻続行だ！」

「今度はこっちだ！」

ああ……あ……

そ……そこは！

「セーラー戦士最大の弱点
オマ○○を攻めてあげるよ！」

「さあ火野さん行くよ！」

「せいぜい頑張るんだね！」

ハアハア
ハアハア

ああああああ……

ああ……ああああああああ……

「どうつ火野さん!？」

ハアハア
ハアハア

「オマ○コ気持ちいいー!？」

あ……

ハアハア
ハアハア

ああああああ……

「隠しても無駄だよ!」

ハアハア
ハアハア

「その証拠に

キミのオマ○コ」から……」

「オマ○コ気持ちいいでしようー!？」

ああ……あ……

「おつゆがとめどなく

あふれでてくるよー!」

ハアハア
ハアハア

「もっと気持ちよくなるよっ!」

もっと強く押し当ててあげるよー!」

グッ

しゃっ!ー!

「ほっほっほっ!」

しゃっ!ー!

「おおおおおおおっ……」

「いっそう愛液が溢れでてくるよっ!」

ああああああああ……

しゃっ!ー!

「そうかい!?!」

く...っ...

「それじゃ望み通り

イかせてあげるよ!」

くうっ!

「セーラー戦士が

こんなオモチャで...」

ハアハア

「童貞の前で無様に

昇天してしまいな!」

いやっ!

「だらしなく...

変態に見られながら...」

いやああっ!

あああああっ!

「イってしましな!」

いやっ!

いやあああっ!

ああ...ああ...

ダメツツ!

ダメツ!

ダメツツ!

もうダメエエエエエエエエエツ!

イクツツ!

イクツ!

イクツ!

イクツツ!

イクツツ!

イグツツツ!

イグウウウウウウウウウウウツツ...

アヒツ...

アヒツ...

ア...アヒツ...

「あれ...火野さん!？」

大丈夫...!？」

ああ...ああ...

あ...

あ...あ...

「これはもう...」

「いらつてごさうじやねー!」

「ヤっっちゃっていらつて」

ことだよねー!」

「ほらさつきから」

勃起しっぱなしなんだ!」

アヒツ...

ハアハア

ハヒツ...

「だめだ...」

「自慢むいて失神しちゃった...!」

ポタ

「案外あつけなかつたね!」

「まさか伝説のセーラー戦士が」

こんなオモチャ一つに...」

ポタ

「潮まきちらして失神なんて...」

ビチャ

ビチャ

ビチャ

ズ

あ...

「キミのアクメ姿みてたら
もう我慢できないんだ!」

「いいね!」

行くよ!？」

「い...挿入れるよ!」

火野さん...!」

「どこかな。．．!?」

「ムンでいらんだよねー?」

「行くよ火野さん!」

「挿入れるよ火野さん!」

「おおおおおっ．．」

「うおおおおおっ!」

!?

ああああ．．．っ

ああ．．．っ!

「あああああっ!」

「先っぽが挿入いった!」

あ．．あああああああああっ!

い．．痛い．．．
痛い．．．っ

あああああああっ．．．
何．．何なの!?

「童貞卒業だ!」

「あと少しだ．．
あと少し挿入れば．．」

何．．っ!?

あなた何やってるの!?

「気がついたんだ!?

火野さん．．．!」

「何って．．!?
セックスだよ!」

「キミ僕のこと童貞だって
バカにしてたよね!」

「僕は今ここで
童貞を卒業するんだよ!」

何バカなこと
言っているの!?

やめてっやめてよ!
だって．．私．．

「だめだ!」

「だめだだめだあああつ!」

「挿入れるぞっ!」

くうううっ!

「挿入れるぞっつっ!」

「挿入れるぞおおおおおつ!」

だめっつ!

だめよっ!

「うおおおおおつ!」

挿

挿

やめてっつ!

ああああ……っ

ああ……っ!

……あ……

挿

挿

イヤッ!

イヤッッッ!

イヤッッッ!

イヤアアアアアアアアアアツ!

「挿入^はいった。。。」

「ああ。。挿入^はいった!」

「これで僕も

童貞卒業だ!」

「あれ。。火野さんの

オマ○に鮮血が。。。」

ああああ。。。。つ

い。。。。つ

さ。。。。

ああ。。。。つ!

「僕のチ○ポが根元まで

火野さんのオマ○に!」

「もしかして火野さん
処女だったんだ。。。。!」

あ。。。。あ。。。。

「童貞の僕をバカにしてたのに
火野さん処女だったんだ。。。。!」

あああああいやあああああつ！

「僕が火野さんの…
初めての男だつ！」

いやあああああああああつ…

「火野さん！僕の名前
憶えてなかったよね！」

「でもこれでいやでも
僕のこと忘れられなくなったね！」

「だって僕が君の
初めての男なんだから！」

と…撮らないで！

カク

い…いや…

カク

カク

「うおおおおお…」

こんな姿撮らないでえええつ！

イヤツツ！

「火野さんの処女を
奪ってやった！」

イヤアアアツツ！

「僕のモノだ！」

そんなのイヤツツ！

「これで火野さんは
僕のモノだ！」

抜いてっ！

カク

お願い抜いてっ！

お願いよおおおおおつ！

「うおおおおおおおつ」

「あああああっー!」

「セックスしてる!」

ズッ

「火野さんとセックスしてる!」

「セックスしてるうううっ!」

「どう火野さん! 子宮まで届いてる!?!」

「えっ気持ちいい?」

「気持ちいいの!?!」

「火野さん!?!」

「もっと気持ちいい!」

「もっともっと」

「突っ込んであげるよ!」

「気持ちいい!」

「気持ちいい!」

「気持ちいい!」

「超気持ちいい!」

「ああああもう射精ちゃうよ!」

「いいよね火野さん! このまま射精して!」

「腔内で射精して!」

「あああああああ」

「射精るっ!」

「腔内に射精するのはやめてええっ!」

「もう射精るっ!」

「射精るっ!」

「うおおおおおおおおおお。。。。」

「イクツッ！」
ドドド
ムツ

あ……

「イクツッ！」

ドド
ムツ

ああ……ああ……

「射精が止まらないっっ！」

ドドド
ムツ

「イクウウウウウウウウウウウウウウ。。。。」

膣内はやめてっっ！

「射精るっ！」

イヤッ！

「射精るっ！」

イヤッッッ！

「ああああ射精るっ」

イヤッ！

「まだ射精るっっっ！」

ドドド
ムツ

「まだまだ射精るっっっっっっっ！」

ドドド
ムツ

いやああああああああああああああ。。。。

ああああああああああああああああ。。。。

「ああ……あ……
射精しちやっつた……」

「火野さんの膣内で
射精しちやっつた……!」

ああ……っ!

「あまりにも気持ちよすぎて
我慢できなかつたよ!」

「ごめん
ごめん……」

……あ……

「しかし哀れだね
火野さん……」

「これがセーラー戦士の
成れの果てとは……」

「でもこれでこれからの
学園生活が楽しくなりそうだ!」

「明日からもよろしくね!」

「僕の火野さん!」

奥付
催眠惑星Mars

発行日 2022年5月1日
発行 おとこじゆく
発行者 ななしのいち
印刷 大陽出版株式会社様
連絡先 bunotumikokia@yahoo.co.jp
18歳未満に方の購入を禁じます



催眠惑星 Mars

おとこじゆく
ななしのいち

成人向